

Next Action



JFCアジア+2023 リトアニアと日本の作曲家の作品

2023年3月24日（金）
18:00開場/18:30開演
ミュージアザ川崎市民交流室

KOTO-NOBU-LOG.



実感のない哀しみ

14日に、突然の訃報を受け取りました。20代の時からずっと見守ってくださった先生で、そのお人柄は温かく、大きく、音楽や演奏に厳格で大好きな先生でした。若い頃の思い出や、食器を分けて頂いたり、料理や梅ジュースの作り方を教えていただいたり、毎回手作りの夕食をご馳走になったり、都電に乗って遊園地に出掛けたり思い出が沢山あります。今回、コロナ禍ということで、ご葬儀はご家族のみで執り行われ、先生が亡くなられた実感が湧いていません。けど、もうお会いできないんですよね、先生。いつも、ありがとうございます。これからも頑張ります。

“和”のじかん

昨年の11月からスタートした滋賀県内でのアウトリーチ事業「和のじかん」が、今月すべての日程を無事に終えることができました。昨年からは、次世代を担う邦楽器アンサンブルを育成するための滋賀県立文化産業交流会館による「邦楽専門実演家養成事業」の講師も担当させて頂いており、11月から1月は毎週滋賀県を訪れるシーズンとなっています。と同時に、そのアウトリーチ・シーズンは、私と滋賀県が親密になる機会でもあり、今では滋賀県は第二の故郷のような地になってきています。



そのアウトリーチ事業「和のじかん」は、滋賀県内の小中学校を対象に行われるもので、基本は1クラス単位で、音楽室など劇場よりも近い距離で音楽や演奏を児童に届けるものです。その“アウトリーチ”という言葉には、「置いてくる」という意味が含まれており、10年、20年先の邦楽界のために、邦楽への興味や関心を育むための種を置いてくる必須の分野であり、私自身にとってはコンサート活動との両輪になっている活動です。



今年は昨年制作したプログラム内容を演奏曲順、何を紹介し、何を中心に据えるのかを再考した結果、箏奏者一人で行う方法として今年スタイルが1つの方向性を示したような気がしています。具体的な演奏曲目は、《鳥のように》（沢井忠夫）→《十七絃独奏による主題と変容 風》（牧野由多可）→《Intermezzi II》（望月京）→「春の海セッション」（春の海をモチーフに、児童のボディパーカッションとのセッション）→《六段の調》（八橋検校）となっており、児童の集中力と好奇心を飽きさせず、尚且つ演奏家として知って欲しい魅力を曲間のMCでつないでいきます。特に、児童との参加型セッションは、他の邦楽家の方にも、ぜひ取り入れて頂きたいと思っている手法です。舞台上上がっていて日々感じていること、考えていることをダイレクトに伝えられるアウトリーチ、私にとっても貴重な“和”のじかんになっています。

「厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財」に決定！



昨年制作したノブラボ・コンサート・キャラバン2022 栃木公演『大谷石蔵の響き ～とちぎ未来大使を迎えて～』が、「厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財」に決定されました。

児童福祉文化財とは、子供たちの道徳、情操、知能、体位などを高め、その生活を健やかで豊かにするとともに、それら児童福祉に関する責任や理解の啓発普及、および子供たちの指導者や市民に対して、それらの知識や技術普及に積極的な効果があるとされる出版物、舞台芸術、映像メディアを、厚生労働省社会保障審議会によって推薦するものです。